

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリトル向日		
○保護者評価実施期間	6年10月1日		6年12月末日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	6年11月1日		7年2月日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	7年3月1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・中高生に特化した事業所	・今日もドリトルに行きたくなる、楽しい活動内容 ・高校卒業後の進路～将来の生き方へのペアトレ	・グループ内で児童発達支援事業所、小学生放デイ、中高生放デイ、障害者就労事業所、相談支援事業所と各ライフステージ毎のサービス提供事業所が揃ったので「共生生活を目指してのグループホーム」の設立
2	・家、学校、ドリトル その利用者の居場所としての存在	・ドリトルで出来たお友達との交流、調理実習での料理をSMSで教えてあげる、公共交通機関を使っての移動する方法を活動に取り入れる(日曜日などドリトル友達と一緒に遊びに行く)	・高校卒業後も続くお友達関係づくり OB,OG会を実施して卒業後の交流を促進する ・今日ドリトルに来て楽しかったと思えるような活動を作る ・日々の活動を陳腐化させない
3	・障がいがあるからと体験・経験が少なくならないように、中高生の年代に必要な「体験・経験格差」をなくす豊富な活動内容	・放課後の利用は、社会との接点のある活動が中心。長期休暇期間は、利用者行きたくなる外出先を選定し「社会見学」夏休みには宿泊体験も実施し利用者の楽しみの一つとなっている	・コロナ前には実施していた、グループ事業所と一体となった観光バスを借りた外出支援

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人材の確保	・福祉界だけでない人材不足 ・障がい児支援に関する理解の不足 ・低賃金	・障がい児支援に関する理解の促進 ・福利厚生者の充実
2	・専門的研修の実施	・障がい児、者の支援を理解して、その志を自らの仕事とする意味を考える	・コロナ前に実施していた、グループ内事業所の合同ステップアップ研修の実施 ・現在も取り組んでいるが、オープン研修の積極的参加
3			